

第11回奈良ESD連続セミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2020年1月22日(水) 19時～21時30分
- ◇会場 次世代教員養成センター2号館 多目的ホール
- ◇参加者 大西・圓山(飛鳥小)、三木(都跡小)、島(郡山西小)、高良(筒井小)、樋口(平城西小)、小谷・中澤哲(平群北小)・蔵前(真美ヶ丘第1小)河野(附属小)、北村・中澤(奈良教育大学)仲村・藤原・坂元・山之内・畑下(学部生)

◇内容 学生等の作成したESD学習指導案の相互検討会

1. 「奈良公園観光パンフレットをつくろう」5年生総合 仲村さん

- ・テーマがかぶってしまった時 発信的手段を変える
- ・テーマを絞った方が深まる
- ・奈良公園の魅力について教員側ねらいと児童が魅力に感じるところのすりあわせ
- ・手段が目的化していなかったのはよかった
- ・活動がカオスにならないか。フィールドワークをいれたり、常識を揺さぶったりするような教材があればいいのでは。
- ・ゲストティーチャーではなく、自分から聞きに行くのはよい。しかし、一人ひとりのねらいをはっきりさせる必要がある。
- ・各グループで調べたことを学級で合わせて、奈良公園を全体的に捉える
- ・必ず人と関わらせるといった「しかけ」があったほうがよい。
- ・パンフレットを配布した後、配布してもらった学年が遠足に行ってから、フィードバックをもらう。
- ・せっかく作ったパンフレットを実際に配布する行動がある方がいい。
- ・「こんなに奈良公園は面白いんだ」を共通テーマにし、それを多面的に調べて深めるという学習がいいのでは。
- ・表面的に知っていることを出し合っていくうちに、必要になる深い情報が見えてくるのでは。
- ・持続可能な観光地の在り方(SDGsの⑩)につながる
- ・奈良公園の魅力について話し合う場面が必要。



2. 「赤とんぼ」第5学年音楽科 藤原さん

- ・音楽から生物多様性へ進むのは斬新だ
- ・赤とんぼを歌ったあと、インタビューに行く前に何かが必要。
- ・地域、年代によってイメージできる、できないがある。
- ・アナリーゼ(楽曲理解)が大切。それを知ることによって歌い方が変わるという学習展開が素晴らしい。
- 歌い方で前後の変容が把握できるのも優れている。
- ・5～8の内容が重要になる。
- ・アンケート調査は対象に工夫する
- ・専門家に聞くというものもある。
- ・高齢者施設にあって、聞いてもらおうを目標に位置づける。



- ・情景が浮かぶことが大事。絵に表す。歌詞の内容から当時の暮らしを想像させる。
- ・絵に描いてみることで情景をイメージできているかを把握する。
- ・どの年代、どの場所という視点でアンケートをすればよいのでは。
- ・赤とんぼの思い出を聞くのもいい。
- ・4番だけ現在形

3. いにしへの心に触れる「月に思う」 中学校1年国語科 坂元さん

- ・月のイメージ 日本ー美、 海外ー不吉
- ・季節と暦のズレを調べる
- ・「さやけさ」に着目：日常生活に使わない言葉（昔は使われていた）
- ・美しい月は満月だけではない 月に対するイメージをひろげる
- ・万葉集に奈良市の月の歌が9首ある。グループで話し合って和歌の意味を考える
- ・最後の活動：100年後まで残る歌をつくるの部分
言葉遊びや暦とのズレなど、それまでが面白いので、オリジナル観が薄れるかもしれない。書きたい内容を深めたりする時間がある方がいい。
- ・責任性 和歌文化の継承



4. 平和学習 奈良に帰ってきた三角定規 小学校6年総合的な学習の時間 蔵前先生



- ・子どもが持ってきた新聞記事をもとに、新聞社に電話をかけ、遺族の方も紹介してもらった。
- ・平和学習ー原爆ー爆弾被害のイメージが定着している。それだけではないはずだ。
- ・修学旅行前には視聴覚教材を用いた学習
- ・奈良にまつわる戦争被害はないかな？ 新聞記事の子ひとり
- ・奈良から戦争に行った人もいる 新聞記事の提示
- ・ゲストティーチャーに記者と遺族の方が来ていただく。三角定規の実物を持ってきてくださる。
- ・南埜さん 沖縄で遺品を収集している方
- ・三角定規は私にとって父親のようなもの
命の大切さを伝えていただく
- ・遺品を通して、戦争被害について考えさせることができた 身近であったのもよかった。
- ・資料館の展示方法が変わった：遺品にかかわるストーリーになっている
広島資料館の展示物を見る見方を事前に育てることができた
- ・保護者の感想 広陵町内の神社にも戦争で亡くなった方の碑がある。
広島大仏、どんづるぼうの紹介
- ・平和のために自分たちにできること 行動化を促すために「子ども平和宣言」
- ・全校に呼びかけて、平和の木をつくる。全校への発表とフィードバック 児童から記者から
- ・ゲストティーチャーにゴールの部分もみてもらう

- ・平和学習の成果を評価する方法はどのようなものがあるのか
道徳の評価と同じように「自分で考える・判断する」という態度の成長を評価するのか
文章化されたものをプロ教師の目で見ても、価値づけする。
新聞の切り抜くところがかわっていく。見る目がついてきた？

5. どのような買い物がより良い消費行動か 5年生家庭科 山之内くん

- ・子どもにもとめる子どもの変容
消費行動 モノと個人のやりとりだけでなく、モノを通じた影響を
考えることができる子ども
- ・ゆずりっ子 放棄されたゆず畑を守る活動になっている
農家のコミュニティの維持につながっている
ザンビアでの医療活動支援になっている。
- ・これまでの消費行動とゆずりっ子に関わる消費行動の共通点・相違
点を考える
- ・自分事の問題にするために「質問づくり」に挑戦する
質問の洗練化 ねらいに到達できる問い
- ・エシカル商品について調べる活動があった方がいいのでは。
- ・子どもがすぐにできるSDGsへの貢献は消費行動であろう。
- ・でも、安いのを買ってしまふ 販売者・消費者の相互関係
- ・大企業の営業の方の話も聞いてみたい



6. よりよい食生活を目指して 中学校2年生 家庭科 畑下さん



- ・今と昔の食生活の変化をみる
- ・昔の食生活のよさ 地産地消 手づくり 生ごみは肥料に
- ・現代の食生活と環境問題の関連を考える フードマイレージ、
ゴミの排出量、水資源の無駄遣い
- ・環境に優しい調理実習
買い物段階から 旬の食材 地産地消
レシピは教員側が用意してくじ引きで決める
排出されたゴミの量を調べる
- ・環境に配慮した行動を発表する。
- ・よりよい食生活がテーマだが、環境面に終始しているのは大丈夫か

(教科として成り立っているか?)

中学2年は基本は被服である。中2は栄養面ではなく、自給率やフードマイレージ、郷土料理について学ぶことになっている。食生活が健康面だけでなく環境面にも影響を与えていることを考えるという意識を持ってもらいたい。

- ・今の食生活のよい面も学ばせたい

※1月末日までに作成した学習指導案を中澤までメール送付してください。

次回は2月13日(木)19時スタートです。